

I. 平成30年度SGH研究開発完了報告

平成31年3月29日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

大阪府高槻市大学町2番7号
学校法人大阪医科薬科大学
理事長 植 木 實

平成30年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

平成30年4月2日（契約締結日）～平成31年3月29日

2 指定校名

学校名 高槻高等学校・中学校

学校長名 工藤 剛

3 研究開発名

医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成

4 研究開発概要

本校のSGH事業は、同一法人下にある大阪医科大学との一体的な高大連携により、「グローバルヘルス」に問題意識を持ち、環境、貧困、教育など様々な方向から、歴史的にも日本と関係の深いアジアの人々の健康問題に取り組むグローバル人材を育成し、さらに思考力・コミュニケーション力・リーダーシップを高めることによってバランス感覚あるグローバルマインドを育成する教育システムの開発を目的としている。平成30年度の主な事業として、高校1年生は5回目となる「海外課題研究中間発表会」（2月・台北市・私立延平高校）、高校2年生は4回目となる「アジア・フィールドワーク」（パラオ共和国）を実施、年度末には「第3回SGH事業公開発表会」を開催、SGH事業主対象であるGAコース生全員が口頭発表やポスター発表を行った。6月中旬にロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長のピーター・ピオット博士他4名のグローバルヘルス分野の研究者を本校にお招きし、「SGH特別セミナー」を開催した。また、本校の行う実践を近隣校へと普及させるために「グローバルヘルス高校生フォーラム」を開催し、近隣6高校19名の他校生を招いて協働活動を行えたことは、本研究開発にとって有意義な事業となった。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①SGH 事業に資するキャンパスレイアウト新構想に基づく新校舎群の建設												
②大阪医科大学との教学面での高大接続推進		○	○	○	○	○	○	○			○	
③SGH 事業に資する教員の積極的採用											○	
④本校とケンブリッジ大学関係者が共同主催するリーダーシップ研修への財政支援	○											○
⑤本校とスタンフォード大学が共同開催するオンラインコースのための財政支援				○								
⑥中学「英会話」授業推進への財政支援												
⑦アクティブラーニング推進のための教員研修の開催の財政支援											○	
⑧本校主催「グローバルサイエンスフォーラム」(7 高校参加) 開催の財政支援					○							○
⑨運営指導委員会					○						○	

(2) 実績の説明

① SGH事業に資するキャンパスレイアウト新構想に基づく新校舎群の建設

平成 28 年度から約 5 年をかけ、特色ある理科教育、実効性のあるグローバル教育を行うためのハード面での充実を図るため、新校舎の建設を含むキャンパス整備事業を推進している。第 2 期工事は平成 30 年 8 月に終了し、新図書館やアクティブラーニングコモンズ、大人数を収容できるコナコピアホールも完成し、SGH の活動に大きく寄与している。

② 大阪医科大学との教学面での高大接続推進

SGH、SSH 事業における教育内容を高度化するため、同一法人下の医科大学の関係教員の指導を受ける機会を徐々に拡充している。平成 30 年度は、本校生を対象にした「大阪医科大学基礎医学講座」を約半年にわたって開講し、高校 1、2 年生の医学部医学科への進学希望者 93 名がこれを受講した。「生命科学系の次世代リーダーの育成」を目指す本校 SSH 事業と「グローバルヘルスに資する次世代リーダーの育成」を目指す SGH 事業の双方にとって極めて有意義なものとなった。解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、法医学、衛生学・公衆衛生学、病理学の 8 講座が開講された。

③ SGH事業に資する教員の積極的採用

特色ある SGH 事業を展開するため、課題研究の指導に対応できる若手の高校教員、また高校生への指導も期待できるパブリックヘルス、グローバルヘルスに精通した医科大学の教員の採用に努めた。

④ 本校とケンブリッジ大学関係教育団体が共催するリーダーシップ研修への財政支援

GA コース生徒の英語運用力とリーダーシップを高めるため、英国ケンブリッジ大学関係者で組織される教育団体 (BlueBridge Education) を本校に招き、3 日間、校内で英語漬けの研修を実施した。

⑤ 本校とスタンフォード大学が共同開催するオンラインコースのための財政支援

平成 27 年度にスタンフォード大学国際異文化教育プログラム(the Stanford Program on International and

Cross-Cultural Education (SPICE) at Stanford University) と高槻高等学校が共同で開設したインターネットによるオンライン講座を平成 30 年度も継続開講した。これは9月から3月までの7ヶ月間に8回のオンライン授業をライブで行うものである。本講座の正式名称は、“The SPICE/Stanford e-Course on Global Health for Takatsuki Senior High School” であり、グローバルヘルスを中心に据えた本校生徒の課題研究に十分資するものである。今年度の講座運営費（人件費を含む）も、これまでと同様にすべて法人が負担した。

⑥ 中学「英会話」授業推進への財政支援

SGH事業を実効性あるものとするため、早い段階から高い英語運用力育成を目指して、法人として外部英会話学校（ベルリッツ・ジャパン株式会社）と契約し、中学1・2年生に週2～3時間の英会話授業を実施した。また、外部英語教育機関（ウェブリオ株式会社）と契約し、中学3年生に週2時間のフィリピンの現地講師との1対1のオンライン英会話授業を実施しているが、週1時間分の受講料は法人が負担している。平成30年度は中学3年生（在籍265名）では146名が準2級・2級を取得している。高校1年生（在籍241名）は111名が2級を、準1級・1級をそれぞれ1名が取得、高校2年生（在籍250名）は11名が準1級を、1名が1級を取得した。学年により差はあるが、年々一定の成果をあげてきていると言える。

⑦ アクティブラーニング推進のための教員研修会の開催の財政支援

2月16日に、全国から約160名の高校教員、教育委員会関係者等が本校に集い、「第3回アクティブラーニング研究会」を実施した。京都大学の松下佳代教授、関西大学の森朋子教授による講演もあり、大変な盛会となった。開催に際し、法人として会場設営等、必要な支援を行った。全体会では、本校のSGHコースの生徒（高1）1グループとSSHコースの生徒（高2）1グループ、および中学1年生がそれぞれの課題研究、夏期研究発表を披露し、多数の参加教員から評価を頂いた。

⑧ 本校主催「グローバルサイエンスフォーラム」開催の財政支援

JST（科学技術振興機構）のSSH交流会支援事業として始まった平成27年度「近畿圏高校生サイエンスフォーラム」を引き継ぐ取り組みとして、平成30年度「グローバルサイエンスフォーラム」を開催する予定であり、法人としてフォーラム開催に向け財政支援を行った。

⑨ 運営指導委員会の開催

第1回を8月25日に、第2回を2月23日に実施した。第1回運営指導委員会では本校のSGH事業の3年目にあたり、文部科学省で行われた中間評価のためのヒアリングについてと2年次の運営および第3年次前半の事業について、本校SGH事業各責任者と委員との間で意見交換を行い、委員より指導・助言を頂いた。第2回委員会は、同日に開催した本校の「SGH事業公開発表会」について委員に見学して頂いたことや本年度の事業について、評価や今後の改善点等について指導を頂いた。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（ 契約日 ～ 31 年 3 月 31 日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①総合学習「グローバルスタディーズ入門」の設置												
②高1「グローバル英語表現Ⅰ」の設置												
③高2「グローバル英語表現Ⅱ」の設置												
④高1「グローバル時事英語」の設置												
⑤高1「グローバル課題研究」の設置												
⑥高2「グローバル課題研究」の設置												
⑦高1「グローバルスタディーズ」の設置												
⑧高2「グローバルスタディーズ」の設置												
⑨京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットとの高大連携事業の実施												
⑩スタンフォード大学とオンライン講座共同開設												
⑪海外の連携大学・高校との協働活動・課題研究の成果発表会												
⑫海外の政府の支援によるアジア・フィールドワーク（パラオ共和国）の企画・実施												
⑬ケンブリッジ大学関係機関とリーダーシップ集中研修共催												
⑭「SGH 特別セミナー」「グローバルセミナー」の継続的实施												
⑮夏期「英国・米国グローバルリーダーシップ研修の実施												
⑯高3「グローバル英語表現Ⅱ」の設置												
⑰高3「グローバル課題研究」の設置												
⑱高3「グローバルスタディーズ」の設置												
⑲他校との共同発表会への出場												
⑳「グローバル課題研究」に関する「独自教材」の開発												
㉑「グローバルヘルス高校生フォーラム」の開催												
㉒「アジア高校生架け橋プロジェクト」受入												

(2) 実績の説明

① 総合学習「グローバルスタディーズ入門」を設置 [中3 GAコース]

国際人に求められる教養や論理的な思考力の習得、国際保健の基本的理解、ツールとしての英語を活用した世界の諸事情（グローバルイシュー）の学習を通して、バランスのとれたグローバルマインドを身につけるよう指導した。

② 学校設定科目「グローバル英語表現Ⅰ」設置 [高1 GAコース]

学習指導要領の「英語表現Ⅰ」に加え、英語で発表を行うにあたって必要な英語力を培い、翌年2月実施の「海外課題研究中間発表会」（台湾）を目標として、英語での発表力の強化訓練を行った。

③ 学校設定科目「グローバル英語表現Ⅱ」設置 [高2 GAコース]

11月の「アジア・フィールドワーク」（パラオ共和国）を目標とし、通常の「英語表現Ⅱ」の内容に英語で発表する力や英語で議論する力を養うためのメニューを加えた指導を行っている。

④ 学校設定科目「グローバル時事英語」設置 [高1 GAコース]

世界の様々な出来事についての英文を読み、要約発表や、自分の意見を述べられるようにネイティブ教員から指導を受ける機会を設けている。対象生徒の英語運用力向上に寄与している。

⑤⑥ 総合学習「グローバル課題研究」の設置 [高1・2 GAコース]

高校1年の課題探究A、高校2年の課題探究Bを、それぞれ週に2時間配当し実施した。Aにおいては、まずグローバルイシュー、とりわけ国際保健に関する講義を通して問題意識を持たせ、課題研究テーマを決定。3学期の

「海外課題研究中間発表会」での発表を目標として位置づけ、2年次におけるより高度な研究の足掛かりとなるよう研究を進めさせた。Bにおいては、1年次の学習を深化させ、「アジア・フィールドワーク」を通してそれぞれの研究課題に関する問題意識を深め、実際に現地での調査や資料収集を実施して、3学期にそれぞれの課題論文を完成させた。本校のSGH事業公開発表会やSGH全国高校生フォーラム、SGH甲子園などで発表を実施した。また、グローバル特別セミナーやグローバルヘルス高校生フォーラムでは主体的に運営を行う成長を示した。

⑦⑧ 総合学習「グローバルスタディーズ」の設置 [高1・2 GAコース]

週1時間の授業で、グローバル 이슈・国際保健に関する英文を読み、英文での情報収集方法を実践させた。また近現代の日本とアジアの関係、特に日台関係、日パラオ関係等についての学習をした。併せて日本人の海外での活躍等についても学ぶ機会を設けた。海外で学ぶことや海外から見た日本人の姿について、意識が高まったことが生徒への調査から明らかとなった。

⑨ 国内の高大連携事業の実施（京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットを中心に）

本校がSGHアソシエイト校となる前年の平成26年度から大阪医科大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、関西学院大学等と高大連携を学部や研究室のレベルで推進してきた。中でも本校の中心テーマであるグローバルヘルスに関して生徒の専門的な学習に寄与しているのが京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットとの高大連携である。平成30年度は以下の連携事業を行った。

- ・京都大学在籍の海外からの若手研究者を本校に招聘して実施するグローバルセミナーを実施
…アフガニスタン、コンゴ、ネパールの研究者がゲスト講師として来校し、3回実施
- ・京都大学で開催された国際会議への本校生の見学と発表
…2018年若手パブリックヘルス研究者京都国際会議（2018 Kyoto Global Conference for Rising Health Researchers）に生徒10名が参加（12月3日）

⑩ スタンフォード大学とonline講座 共催

“The SPICE/Stanford e-Course on Global Health for Takatsuki Senior High School 2018” スタンフォード大学国際異文化教育プログラムと本校が共同開講している。米国西海岸からのオンライン授業を半年間に8回実施。4期目の今年度は高校1年生44名が受講し、修了証書を授与された。

⑪ 海外の連携校との協働活動・課題研究の成果発表会

第5回「海外課題研究中間発表会」（台湾）

日程：平成31年2月25日～2月28日

生徒：高校1年GAコース生44名 教員：3名

場所：私立延平高級中学、国立台湾大学 公共衛生学院、私立台北医学大学 公共衛生学院

⑫ 連携大学の支援によるアジア・フィールドワークの企画・実施

第4回「アジア・フィールドワーク」（パラオ共和国）

日程：平成30年11月11日～11月16日

生徒：高校2年GAコース生39名 教員：3名

場所：私立ミンゼンティ高等学校、国立パラオ高等学校、パラオ政府保健省、パラオ政府教育省、国立ベラウ病院、在パラオ日本国大使館 など

指導：大阪大学国際共創大学院学位プログラム推進機構 三田貴准教授、現地NPO職員

⑬ 海外機関との共催によるリーダーシップ集中研修開催

「2018年度インターナショナル ヤングリーダー育成プログラム」

日程：平成30年3月30日～4月1日

生徒：高校1年GAコース生44名 教員：4名

場所：本校内

指導：ケンブリッジ大学関係者による教育会社（BlueBridge Education[※]）講師、大学生

※Cambridge 大学 Homerton College で、大学正規プログラム Homerton International Programmes の運営・指導を受託

⑭ 「SGH特別セミナー」「グローバルセミナー」等の継続的实施

「第4回SGH特別セミナー」

平成30年6月12日、ピーター・ピオット博士の他、4名のグローバルヘルス分野の研究者を迎えて開催した。ピーター・ピオット博士は昨年に続き2度目の来校である。ピーター・ピオット博士からの基調講演のあと、高校2年生の2グループがそれぞれの研究テーマで発表を行い、ゲスト講師一人一人から今後の課題研究にとって貴重なコメントをいただいた。中3から高2までのGAコースの生徒130名が全て英語で行われたセミナーに真剣に参加し、特に、高校2年生が中心となり生徒だけで運営を行うことができたのは今後の活動にとって大きな成果であった。

「グローバルセミナー」

京都大学で研究を行っている外国人研究者によるセミナーを3回実施した。

⑮ 海外連携機関との「次世代リーダー養成プログラム」「同プレコース」の実施

夏休み中に、英国における「次世代リーダー養成プログラム」(7/25～8/4、40名参加)、米国における「次世代リーダー養成プログラムプレコース ポストン夏期語学研修+ホームステイ」(7/27～8/6、30名参加)を実施した。

⑯ 学校設定科目「グローバル英語表現II」の設置 [高3 GAコース]

高1・高2の英語表現でこれまで学んできた表現法をもとに、自らの意見を、説得力を持って伝えられるよう、また切り口を変えて意見を出せるように指導を行った。

⑰ 総合学習「グローバル課題研究」の設置 [高3 GAコース]

課題研究の集大成として設置。「グローバルヘルス・アジアの健康問題」について高校2年次にそれぞれがまとめた研究論文の成果を、医療と感染症・食糧問題と食文化・環境・教育などの分類別に「アジアの人々の健康を支えるための提言書」としてまとめて公表する。(別冊生徒作品集)

⑱ 総合学習「グローバルスタディーズ」の設置 [高3 GAコース]

コミュニケーション英語及びグローバル英語表現で養成した英語力を元に、国際関係、国際保健、比較文化、環境など、多分野にわたるトピックスを取り上げ、実践的な英語力と考える力を養成していく。社会問題に関心を持つことを通じて、日本と英語圏との比較をし、自分の意見を表現し、自分の考えを発展させて、議論を深める方法や技術を身につけることを目的とする。

⑲ 他校との共同発表会への出場

- ・「SGH全国高校生フォーラム」 平成30年12月15日 東京国際フォーラム
- ・「高校生のためのポスターセッション in 京都大学」 平成31年3月16日 京都大学
- ・「SGH甲子園」 平成31年3月23日 関西学院大学

⑳ 「グローバル課題研究」に関する「独自教材」の開発

指定3年目の取り組みとして、SGHアソシエイト校時代(平成27年度)を含め、過去4年間における課題大研究の指導実践をもとに、本校オリジナル教材集を編纂した。主要なグローバル 이슈をカバーしつつ、健康や公衆衛生の問題に焦点を当てた内容となっている。

㉑ 「グローバルヘルス高校生フォーラム」の開催

中間評価にて指摘された課題を克服するために、また本校の行う実践を近隣高校へと普及させるための新たな取り組みとして行ったものであり、また高大連携事業として京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットの後援で開催した。高校生が協働活動を通じて「グローバルヘルス」を意識し、高校生の視点から世界の人々の健康問題や健康の向上を考える機会を設定することを通して、バランス感覚の優れた次世代グローバルリーダーを育成する目的で行った。招待校6校20名の生徒が参加。

㉒ 「アジア高校生架け橋プロジェクト」の受け入れ

平成30年8月末から31年2月まで「アジア高校生架け橋プロジェクト」による留学生2名の受け入れを行った。1名はタイ、1名はミャンマーからの生徒で高校1年に編入在籍させた。本校にとって初めての留学生受入れとなるが、このことからグローバル教育として学ぶことも多々あり、今後の活動に有意義なものとなるに違いない。

7 目標の進捗状況、成果、評価

一昨年度より本校のSGH推進部が作成した独自のルーブリックを用いて検証を行っている。

(1) 研究開発Ⅰに関して

【高1】 今年度は全体的に昨年度生徒の平均評価とほぼ同様の高い水準で推移している結果となった。これは課題を指導する教員が生徒個人の意識を高く持たせながら課題研究に取り組ませた結果であると思われる。②「グローバルヘルスとの関連」は本校の特色であり高評価となっている。⑩「海外研修を意義あるものにし課題研究に活かしたか」では高評価であった。⑧「結論に厚みのある記述ができていないか」では相対的に低い数値となった。この調査は台湾研修直後に行ったため、現地の学生や接してきた研究者等に出会い、自己の発表に対する現状に満足できた結果であると思われるが、内容の点ではもう1段階上を目指さなければいけないことが経験を通して認識されたのだと思う。高校2年での課題研究やフィールドワークを通して生徒の充実度を上げていく指導にさらに取り組みたい。

【高2】 高校1年次と比較して、ほぼすべての項目で昨年度を下回る結果となった。海外研修を高校1年、高校2年と経験し、また公開発表会での経験をしたことで自信もつけることができたが、その分自分の理想とするレベルも高くなり、それとの比較においてこのような結果となったと思われる。その中でも高かったのは「海外研修を意義あるものにし、課題研究に活かしたか」「論文やプレゼンテーションを適切に発表できたか」であった。研究開発のテーマであるグローバルヘルスへの取り組みからの発表活動が身についてきていると思われる。しかしながら、「先行研究を調べ、課題の背景や問題点を認識できているか」「社会科学的または統計的に資料の収集・分析ができているか」「結論に厚みのある記述ができていないか」では下降しており、指導方法の更なる充実を今後の改善点としたい。

【高3】 これまで研究してきたことへの提言書を作成することから、高校3年の1年間ではなくGAコースの中で3年間の課題研究をまとめている。問1では①調べ、②発表、③まとめ、④提案、⑤英語の活用のどの項目についても低評価の生徒はほとんどいなかった。その中でも③は前年と比較しやや低い値となっているが、提言書をまとめる期間が1学期までとなりかけられた時間の差が結果となって若干現れたと思われる。全体としては課題研究への取り組みができていたと思われると共に、生徒自身の満足のいくレベルに到達できていたという充実感を得られたことが読み取れる。高校3年生の活動を更に軌道に乗せるために、この経験が今後役に立つよう改善を進めていきたい。

(2) 研究開発Ⅱに関して

【高1】 昨年度生のルーブリック評価では、4や5をつけた生徒の割合が非常に多かったが、今年度生も4以上をつけた生徒が過半数を占めており、特に「プレゼンテーションについて」の項目では平均約78%の生徒が4や5の評価をしている。他の項目でも軒並み高評価をしている。これは実際に「台湾研修」を行い、それまでの取り組み内容に自信を持ってきたことの現われであると共に、今後の指導において更に充実度を上げていく指導が求められる。

【高2】 昨年度生は4や5をつけた生徒の割合が6割を占めているが、今年度生は英語の実力は低くないのに、英語表現の項目で6割を超えない結果となっている。これはこれまでも述べてきたように学力が高い故に、自己の目標がこれまで標準とされるものよりも更に高くなることからの結果であると思われる。今後このように英語の学力の高いクラスに対して、どのように指導をしていき、生徒の自己評価を高い結果に持っていくかが課題となってくる。

【高3】 ルーブリック評価について、①テーマへの取り組み具合、③構成力、④発音・抑揚、⑤話し方や動作、⑥反論する力でそれぞれ4をつけた生徒が最も多かった。これは前年度から見ると自己評価が上がっている者が多いこととなる。②語彙・文法・語法では3をつけた生徒が多かった。以上のことから、実力がついて発表を経験するにつれ、語彙・語法などの必要性をより感じていると考えられる。発表する自信をつけることともに語彙力の増進にどのような指導をしていくのか、その方策を次年度以降の課題としたい。

<添付資料> 目標設定シート

8 次年度以降の課題及び改善点

(1) 研究開発Ⅰに関して

① 医科大学・薬科大学との連携の一層の強化

課題研究や専門的指導において大阪医科大学と連携を進めてはいるがSGH事業に特化した形では十分に取れていたとは言えず、次年度以降一層の充実により高大連携の深化を図る必要がある。

② 論文作成の指導のシステム化

課題研究をまとめるにあたり、論文作成上の形式の指導は昨年度の蓄積を経て形式はまとまり、今年度は独自教材が完成した。次年度にその実践と検証を行い、更に改訂を行う予定である。

③ SGH事業の担当教員の増加

昨年度からの課題である課題研究の担当教員、プレゼンの英語化を担当する英語教員の増加は少しずつであるが改善してきているが、一層の全校協力体制が必要である。

④ IT機器の充実

調べ学習にインターネットは不可欠であり、購入分も含めて昨年度のパソコン使用に関する課題は改善した。生徒が個人デバイスを所持しているため、更にWi-Fi環境を整えることが必要である。

⑤ プレゼンテーション機会の確保

課題研究の時間の多くは、資料の収集・分析や原稿の作成に費やされる。プレゼンの機会を今年も増やすようにしているが、更に確保する必要があると感じられた。

(2) 研究開発Ⅱに関して

① 英語運用力の一層の向上

学校として資金や時間数を確保し、英語力の育成を推進してきた。その成果は過去5年間のGTECの平均スコアの上昇からも明白だが、海外の高校生との協働学習に及んだ場合、まだまだ力量に大きな差があることは否定できず、生徒もこの点を自覚している。また、ループリックの観点である英語表現に関して、文法的正確さや正しい発音・アクセントへの意識付けが一層必要である。

② 英語プレゼンテーション機会の確保

プレゼンの基本的な知識や技術については昨年度の経験も踏まえた指導を進めている。英語の授業においてプレゼンテーションの機会を増やしたが、生徒の自主練習は十分ではない。その指導を行う必要性を感じている。また、プレゼン後のQ&Aについての指導にも余地は残り、ここでは実践的な機会の確保が必要である。

(3) その他全体に関して

① コース対象生徒の拡充

本校は理系志望者が多く、GAコースを希望する生徒の規模が安定しづらい状況があるが、平成29年4月から中学に女子生徒の入学が始まったことから、この点については早晚改善が見込めると考えている。また公開発表会では中学1・2年生約400名に対しても各々で高校生がポスター発表を行い、SGH事業の活動を紹介した。

② 国内での協働活動の展開

SGH事業において取り組みが偏ったものにならないよう、他の指定校やアソシエイト校との協働活動の場を持つことが効果的であると考えており、昨年度から清風南海高校での発表会に参加発表している。また今年度本校で行った高校生フォーラムを更に充実したものにしていく予定である。

【担当者】

担当課	中学・高校事務部	TEL	072-671-0001
氏名	佐塚琢司	FAX	072-671-0081
職名	事務部 課長	e-mail	satsuka@takatsuki.ed.jp

II. 平成30年度SGH研究開発の成果と課題

(1) 研究開発単位Ⅰに関して

本校SGH事業での「課題研究」の実践では、グローバルヘルスをテーマとした活動を進めている。指定2年目の活動のキーワードとして「高次の自発的な学びの姿勢」「地球共同体への帰属意識」「高校卒業後の自発的学究心」の育成を挙げてきた。テーマ設定としては、生徒の進路を考えた場合、文系からも理系からも接点を作ることができるため、機能し易くなる。SGHコース(GAコース)は、文系・理系の生徒が混在するクラス構成となっており、生徒間相互の刺激が生まれ、以前よりも進路実現についての意識が高まっているように思われる。今年はSGH指定の3年目であるため、まだ最終的な事業の目的までは距離があり、成果としてもまだ限定的である。しかしこれまで行ってきたことを検証し、継続と改善を加えながら事業を進めてきている。後述する高校2年での課題研究の現状からも分かるとおり、仮説(1)にあつては、外部専門家による刺激の影響は大きく、またグローバルヘルスに関する問題意識は着実に醸成されている。①京都大学の国際保健学教室との連携により継続的に海外の若手研究者に本校で指導して頂いていること、②半年にわたりスタンフォード大学とグローバルヘルスに関するオンライン講座を共同開講していること、③高1の3学期の課題研究中間発表において国立台湾大学公共衛生学院で生徒が教授陣の前で研究発表を行い、専門的な指導を受ける機会を設けていること、④台北医学大学の公共衛生学院でも指導を受ける機会を確保していること、⑤高校2年の11月のパラオ・フィールドワークでは、現地政府保健省で健康問題に関する調査・聞き取りを、次席クラスの4局長から直接行えること、⑥京都大学が主催するグローバルヘルスに関する国際学会に見学・参加させて頂いていることなど、関係機関のご支援により理想的な環境ができています。これらは仮説(2)(3)の前提ともなると考えており、事業の推進者としては、今後、生徒自身の評価などを通して、仮説の検証を継続的に行いたい。評価にあたっては、本校独自の課題研究評価用ルーブリックを関係教員で作成し、利用することとしており、更に自己評価が上がるように指導を改善していく必要があると認識しているところである。

本年度末の「SGH事業コース間アンケート調査結果」から昨年度に引き続き、一定の成果が見られたといえよう。例えば、「外国人との交流の機会などを通して、海外の人が日本や日本人をどのようにとらえているか、イメージや感覚を持つことができましたか」中学3年で82.1%、高校1年で79.1%、高校2年で70%といずれも高い数値を示している。「グローバルマインド」を持つリーダーを育成する軌道ができつつあると言えよう。

【参考】研究開発課題(単位)Ⅰの仮説

(1) 国内外の大学や企業などの外部専門家との定常的な連携により、グローバルヘルスに関する諸問題について、様々な観点からその重要性を体系的に学ばせ、問題意識を持たせることができる。これによって、課題研究の個人テーマの設定やアプローチの仕方がより実効性のあるものとなり、高次元の自発的な学びの姿勢を身につけさせることができる。

(2) 課題研究への取り組みを通して地球共同体への帰属意識を持たせることにより、創造的な方法で、地球環境の維持にコミットすることの重要性を身につけさせることができる。

(3) 国際化に重点を置く大学との定常的な連携により、大学教員、外国人研究者、大学院生、大学生から高い専門性を伴う学問への知的好奇心を喚起することができ、これによって高校卒業後の大学での学びへの憧れ、自発的な学究心を育てることができる。

(2) 研究開発単位Ⅱに関して

本校SGH事業の「研究開発単位Ⅱ」は、「課題研究」以外の実践によって、バランスのとれたグローバルマインドセットを持つグローバルリーダーを育てることを狙うしかけである。設定した7つの仮説においてキーワードとなるのは、「グローバルイシューの知見」、「アジアと日本の歴史、グローバルジャスティス」、「主体性」、「コミュニケーション力」、「リーダーシップ」、「英語力」、「留学」である。本校としては、仮説を機能させるため、前提環境を整備する必要があるが、先の研究開発単位Ⅰで述べたいくつかの機会もこれらを相当程度カバーし

ていると考えている。詳述すれば、①グローバルイシューの知見については、総合学習「グローバルスタディーズ」の設定、②「コミュニケーション力」、「リーダーシップ」に関しては、ケンブリッジ大学関係者（Blue Bridge Education）による英語での3日間の集中研修、③英語力育成においては、学校設定科目「グローバル英語表現Ⅰ・Ⅱ」の設定、④英検等の英語の資格取得に向けた講習の機会、⑤「主体性」に関しては、パラオでのフィールドワークにおける自発的な資料収集・調査、⑥「アジアと日本の歴史、グローバルジャスティス」に関しては、パラオ・フィールドワークに先立つ、外部講師の指導も含めたアジアを中心とする日本の近現代史の学習、⑦「留学」に関しては、「次世代リーダー養成プログラム」での英国・米国のトップ大学への訪問と大学生との交流の機会設定など、関係機関のご支援により、ある程度理想的な環境が整いつつあると考えている。

今年度も昨年度までの知見を重ねて校内学習（①②③④⑤⑥）・校外学習（⑤⑦）の両方で更なる充実化をはかり、英語を用いてコミュニケーションを取るという指導の継続が浸透してきた結果であると思われる。知識面では本校の研究開発テーマであるグローバルヘルスに関する学習も進めた。今年度も私立中高一貫校としての利点を生かし、中学3年次よりGAコースでスタートした学年が高校1年となった。中学3年次では授業・研修を通じて高校GAコースで必要な素養（生徒が課題を見つけて解決するための方策としての授業やセミナー、上級生の発表を聞く機会・英語で講演を聞き、その内容に則して発表者に質問をし、事後のレポートにまとめる等）を学んだ。それらの経験が今年度の活動に大きく寄与していたことが後述するアンケート結果の資料からも分かった。年度末に行ったアンケート（中学3年・高校1年・2年で実施）では3学年比較で「④コミュニケーション能力が向上しましたか」でプラスの評価をしたのが中学3年74.4%、高校1年67.5%、高校2年75%である。「⑤リーダーシップが身につきましたか」でプラスの評価をしたのが中学3年35.9%、高校1年53.5%、高校2年57.5%である。新高校1年の4月初頭辺りでのリーダーシップ研修や海外研修も多く、学年が上がるにつれて着実に上昇している。また、「⑥論理的思考力、合理的判断力を高めることができましたか」でプラスの評価をしたのが中学3年71.7%、高校1年60.4%、高校2年77.5%である。

「⑦プレゼンテーションに自信が持てるようになりましたか」でプラスの評価をしたのが中学3年56.4%、高校1年72.1%、高校2年77.5%である。この2点からは高校1年生で中学3年次の上積みがなされている結果が出ている。そして「⑨海外の学生、高校生との交流から自分の将来を考えるきっかけが得られましたか」でプラスの評価をしたのが中学3年71.8%、高校1年67.4%、高校2年67.5%である。「⑩国際共通語としての英語が身につきましたか」でプラスの評価をしたのが中学3年76.9%、高校1年72.1%、高校2年77.5%である。これらは経験を経るごとに自分自身の課題も見えて、一時的には下がるが評価は上がっている。

（3）課題

本校はSGH 事業だけでなく、SSH 事業も展開していることから、生徒の関心が2分化する傾向がある。もともと理系進学者が3分の2を占める本校では、自然科学への生徒の親和性は大きく、グローバル課題への取り組みの意義について生徒の理解を得るのは少しハードルが高いのが現実である。今年度も昨年度の課題を踏まえ、年度末の研究発表会を合同で行い、双方に所属する生徒が発表に触れる機会を作った。お互いに刺激しあう関係が研究活動に良い影響を与えるよう、今後もこの協力関係を維持していくことが必要であるように思われる。また、今年度は中学生1・2年生に対してもSGH 事業の発表に参加してもらい、高校生からポスター発表を受けている。この内容を更に深めたものにし、今後も推進していく必要がある。

【参考】研究開発課題（単位）Ⅱの仮説

（1）大学や企業などの外部専門家との連携により、主要なグローバルイシューに関する基礎的知見を体系的に学ばせることができ、これによって問題意識を高めることができる。

（2）大学や企業との連携によって、アジアと日本の関係、アジアの歴史に関する理解を深め、さらにグローバルジャスティスについて具体的かつ多角的に学ぶことにより、グローバルリーダーに必要とされるバランス感覚のあるグローバルマインドセットを育成することができる。

（3）国際化を推進する提携大学の協力によって、ワークショップ、セミナー、討論会などさまざまな形態で、生

徒に自己啓発を促し、将来の主体的な進路設計を導くことができる。

(4) 国内の連携大学、NPO、海外の連携高校などの協力によって、英語によるコミュニケーション力向上のための実地研修の場として、ワークショップ、セミナー、討論会、交流会などを設定することにより、生徒に探求意欲の向上、自己啓発を促すことができる。

(5) 海外のトップ大学を訪問し、現地教員や学生の積極的な支援の下、ワークショップ、セミナー、フィールドワークを実施することによって、英語によるコミュニケーション力、国際的なリーダーシップを身につけさせ、将来の進路選択に対する前向きな姿勢、海外への「外向き」の姿勢、等の自己啓発を促すことができる。

(6) 外部の連携機関、留学生などの支援を得て、海外の大学事情について生徒が知る機会を設けたり、本校が独自に世界のトップ大学の1つであるスタンフォード大学とオンライン講座を開設し、生徒がそれを通して学びをすすめることにより、進路選択における積極的な姿勢を育て、将来の留学志向を高めることができる。

(7) グローバルな舞台で活躍するための前提となる「国際共通語としての英語力」を養成するための英語・英会話授業を、中高一貫教育の中で効果的に設定することにより、早い段階から各種英語検定での一定の資格を取得させ、海外の大学への進学も視野に入れさせることが可能となる。

Ⅲ. 実施報告書

本年度の実施報告を記すに際し、まず本校SGH 事業の掲げる構想、目的・目標、それを達成するために本校が設定した研究開発課題（Ⅰ・Ⅱ）と研究開発課題を解決するための仮説について、構想調書から一通り概観した上で、実施状況について検証する。

1. 「構想調書」の概要

① 研究開発構想名

医科大学と一体化したアジア圏の人々の健康を支えるグローバルリーダーの育成

② 研究開発の概要

大阪医科大学との一体的な高大連携により、グローバルヘルスに問題意識を持ち、環境、貧困、教育など様々な方向からアジアの人々の健康問題に取り組むグローバル人材を育成し、さらに思考力・コミュニケーション力・リーダーシップを高めることにより、バランス感覚あるグローバルマインドを育成するための教育システムを開発する。

③ 研究開発の目的・目標

【目的】

本校のSGH事業は、スクールミッション“Developing Future Leaders With A Global Mindset”の具現化の一端である。同一法人下の大阪医科大学、さらに京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットとの緊密な連携により、社会課題として顕在化しつつある「グローバルヘルス」という視点を意識づけ、海外の同世代の若者との協働活動を通して「アジアの人々の健康を支える」ことに挑む、バランス感覚に優れた次世代リーダー育成を目的とする。

【目標】

- ① グローバルヘルスに関する諸課題について深い理解と問題意識を持ち、創造的な手法をもって、この向上と持続可能な地球環境を生み出すことに貢献できる人材を育成する。グローバルヘルスに係る課題研究への取り組みを通して得られた知見と体験が、GA コース（SGH コース）在籍生徒にとって、進路選択の積極的な動機づけとなることを目指す。
- ② グローバルイシューについての理解やアジアの歴史に関する理解を深め、思考力、コミュニケーション能力、リーダーシップを高めることにより、バランス感覚に優れ、海外の同世代の若者と協働活動ができるグローバルマインドセットを持った人材を育成する。GA コース（SGH コース）在籍生徒がこのマインドセットを身につけ、将来、国際舞台での活躍を志すことを目指す。

④ 研究開発課題

【研究開発課題（単位）Ⅰ】

「グローバルヘルスに関する諸課題について深い理解と問題意識を持ち、創造的な手法をもってこの向上と持続可能な地球環境を生み出すことに貢献できる人材を育成するための教育課程の研究・開発」

【研究開発課題（単位）Ⅱ】

「グローバルイシューについての問題意識、アジア圏の歴史に関する深い理解を持ち、思考力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、語学力を備え、海外の同世代の若者と協働活動ができる次世代リーダーとしての素地の育成のための教育課程の研究・開発」

⑤ 研究開発の仮説

[研究開発課題（単位）Ⅰの仮説]

- (1) 国内外の大学や企業などの外部専門家との定常的な連携により、グローバルヘルスに関する諸問題について、様々な観点からその重要性を体系的に学ばせ、問題意識を持たせることができる。これによって、課題研究の個人テーマの設定やアプローチの仕方がより実効性のあるものとなり、高次元の自発的な学びの姿勢を身につけさせることができる。
- (2) 課題研究への取り組みを通して地球共同体への帰属意識を持たせることにより、創造的な方法で、地球環境の維持にコミットすることの重要性を身につけさせることができる。
- (3) 国際化に重点を置く大学との定常的な連携により、大学教員、外国人研究者、大学院生、大学生から高い専門性を伴う学問への知的好奇心を喚起することができ、これによって高校卒業後の大学での学びへの憧れ、自発的な学究心を育てることができる。

[研究開発課題（単位）Ⅱの仮説]

- (1) 大学や企業などの外部専門家との連携により、主要なグローバルイシューに関する基礎的知見を体系的に学ばせることができ、これによって問題意識を高めることができる。
- (2) 大学や企業との連携によって、アジアと日本の関係、アジアの歴史に関する理解を深め、さらにグローバルジャスティスについて具体的かつ多角的に学ぶことにより、グローバルリーダーに必要とされるバランス感覚のあるグローバルマインドセットを育成することができる。
- (3) 国際化を推進する提携大学の協力によって、ワークショップ、セミナー、討論会などさまざまな形態で、生徒に自己啓発を促し、将来の主体的な進路設計を導くことができる。
- (4) 国内の提携大学、NPO、海外の提携高校などの協力によって、英語によるコミュニケーション力向上のための実地研修の場として、ワークショップ、セミナー、討論会、交流会などを設定することにより、生徒に探求意欲の向上、自己啓発を促すことができる。
- (5) 海外のトップ大学を訪問し、現地教員や学生の積極的な支援の下、ワークショップ、セミナー、フィールドワークを実施することによって、英語によるコミュニケーション力、国際的なリーダーシップを身につけさせ、将来の進路選択に対する前向きな姿勢、海外への「外向き」の姿勢、等の自己啓発を促すことができる。
- (6) 外部の連携機関、留学生などの支援を得て、海外の大学事情について生徒が知る機会を設けたり、本校が独自に世界のトップ大学の1つであるスタンフォード大学とオンライン講座を開設し、生徒がそれを通して学びをすすめることにより、進路選択における積極的な姿勢を育て、将来の留学志向を高めることができる。
- (7) グローバルな舞台で活躍するための前提となる「国際共通語としての英語力」を養成するための英語・英会話授業を、中高一貫教育の中で効果的に設定することにより、早い段階から各種英語検定での一定の資格を取得させ、海外の大学への進学も視野に入れさせることが可能となる。

⑥ 課題研究

[← 研究開発課題（単位）Ⅰの仮説の実証のために実施]

(1) 「課題研究《Ⅰ - ①》」の概要

「感染症」「水」「食料」「教育」「紛争」「貧困」「自然環境」「災害」「経済支援」のテーマから1つを選択し、アジアの国の「健康問題」と関連させた課題設定を行い、約1年半をかけ課題研究を行う。高1の年度末には、台湾研修を実施し、同年代のアジアの次世代リーダーとの協働活動を行い、英語による「課題研究」の中間発表を行う。高校2年では、大阪大学グローバルコラボレーションセンターの支援の下、「アジア・フィールドワーク（パラオ共和国）」を実施し、資料の収集やアイデアの実効性の検証等を行う。

(2) 実施方法・検証評価

学校設定科目「（総合学習）グローバル課題研究」（2単位：高1・2）（1単位：高3）を設置。ルーブリック法により検証評価する。ルーブリックは、校内SGH 推進部で作成する。

(3) 「課題研究」活動を支えるための重要な付随的取り組みとして、以下を実施する。

- 《Ⅰ - ②》スタンフォード大学(SPICE)とグローバルヘルスに関するオンライン講座の共同開講
- 《Ⅰ - ③》外部講師による「グローバルセミナー」「グローバル進路講演会」等の開催
- 《Ⅰ - ④》「京都大学グローバルヘルス学際融合ユニット」の学外会員としての活動
- 《Ⅰ - ⑤》国際的な機関への見学、外部支援大学でのワークショップやセミナー

※ 尚、上記は「課題研究」の付随的取り組みであるだけでなく、研究開発単位Ⅱのアプローチとしても複合的に機能している点に留意して報告させて頂きたい。

⑦ 課題研究以外のアプローチ

[← 研究開発課題（単位）Ⅱの仮説の実証のために実施]

(1) バランス感覚あるグローバルマインドセット、教養、思考力、コミュニケーション能力、リーダーシップ、語学力育成のため、下記の学校設定科目を設置する。

- 《Ⅱ - ①》「（総合学習）グローバル スタディーズ入門」（35 時間）（中3）
- 《Ⅱ - ②》「（総合学習）グローバル スタディーズ」（1 単位）（高1～高3）
- 《Ⅱ - ③》「（外国語）グローバル 英語表現Ⅰ」（2 単位）（高1）
- 《Ⅱ - ④》「（外国語）グローバル 英語表現Ⅱ」（2 単位）（高2・高3）
- 《Ⅱ - ⑤》「（外国語）グローバル 時事英語」（1 単位）（高1）

ルーブリック法や質問紙法（アンケート）により検証評価する。

ルーブリックは、本校英語科・SGH 推進部で作成する。

(2) 上記目的のため、教育課程外の取り組みとして、以下を実施する。

- 《Ⅱ - ⑥》「次世代リーダー養成プログラム（夏期英国研修）」「同 プレコース（夏期米国研修）」
- 《Ⅱ - ⑦》ケンブリッジ大学教員による3日間集中の英語リーダーシップセミナーの実施
- 《Ⅱ - ⑧》国際的・全国的なイベント・大会への積極的な参加

2. 平成30年度 年間活動 概要

SGH 指定3年目 事業記録

① インターナショナルヤングリーダー育成プログラム2018 3月30日(金)～4月1日(日)

International Young Leaders Advancement Programme (IYLAP) 2017 [言語: 英語]

高1GA コース生を対象に英国ケンブリッジから来校したBlueBridge Education (Cambridge 大学Homerton Collegeで国際教育プログラムを委託開講)との共催で、新高校1年生44名に対し、英国人教員4名がオリジナルのカリキュラムに基づいてオール英語によるリーダーシップ研修を実施した。研修の最後には参加者が英語でプレゼンテーションを行い、修了証が授与された。



② 外国人研究者によるグローバルセミナー

第14回 6月26日(火) [使用言語: 英語]

講 師: 京都大学大学院 医学研究科 Ms. Zuhul Sulamiman Haares 医師 (アフガニスタン)

テーマ: "Maternal Mortality A Preventable Tragedy"



第15回 7月3日(火) [使用言語: 英語]

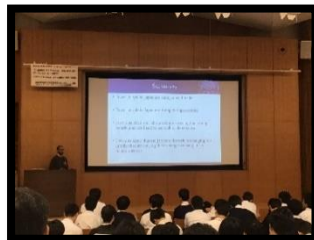
講 師: 京都大学大学院 医学研究科 助教 Dr. Patou Masika Musumari 医師 (コンゴ共和国)

テーマ: "Food Insecurity and HIV Treatment Adherence in the Democratic Republic of Congo: Risk of Antimicrobial"

第16回 11月6日(火) [使用言語: 英語]

講 師: 京都大学大学院 医学研究科 助教 Hemant Poudyal 医師 (ネパール連邦民主共和国)

テーマ: "Change in Himalayan Lifestyle and Its Impact on Health"



③ 「第4回 SGH 特別セミナー」の開催 6月12日(火) 13:10～14:30 [言語: 英語]

ゲスト講師: ロンドン大学 衛生熱帯医学大学院 学長 ピーター・ピオット博士
ロンドン大学 衛生熱帯医学大学院 教授 ハイディー・ラーソン博士

京都大学大学院 医学研究科 教 授 木原正博 博士 (国際保健学講座 社会疫学分野)
 京都大学大学院 医学研究科 准教授 木原雅子 博士 (国際保健学講座 社会疫学分野)

プログラム/ PROGRAMME :

- (1) 開会式とゲスト講師の紹介/ OPENING CEREMONY & INTRODUCTION OF GEUSTS
 [13:10-13:30] (20 分/20min)
- (2) 基調講演/ KEYNOTE SPEECH [13:30-13:50] (20 分 /20min)
 講 師 : ロンドン大学衛生熱帯医学大学院学長ピーター・ピオット博士
 SPEAKER : Dr. Peter Piot, Director, London School of Hygiene and Tropical Medicine
 演 題 : 「日本の中高生へのグローバルヘルスへの誘い」
 TITLE : “ A message for Japanese junior & senior high school students studying global health”
- (3) 生徒発表/ STUDENT PRESENTATION [13:50-14:10] (10 分 x2 グループ /10min.x2groups)
 発表者: 高校2年1組 グループ1(倉場康太、新熊璃久、宮迫要)
 SPEAKER: H2-1 Group1 (Kota Kuraba, Riku Sinkuma, Kaname Miyasako)
 テーマ: 日常生活のための医療情報技術
 TITLE : “Health Information Technology for Our Daily Life”
 発表者: 高校2年1組 グループ2(金坂知樹、下村一馬、西尾宇晃、湯山蒼介)
 SPEAKER: H2-1 Group2 (Kanesaka Tomoki, Kazuma Shimomura, Takaaki Nishio, Sosuke Yuyama)
 テーマ: 蚊の事例を通しての感染症予防
 TITLE : “The Story of Mosquitoes”
- (4) ゲスト講師よりコメント/COMMENTS FROM GUESTS [14:10-14:25] (15 分/15min.)
 ゲスト講師4名 /司会: 高2生徒 /4 guest speakers, Moderator:11th grade students
- (5) 閉会式・記念撮影/ CLOSING CEREMONY・TAKING PHOTOS [14:25-14:30] (5 分/5min) プログラム

5名のグローバルヘルス分野の研究者を迎えて「第4回 SGH グローバルセミナー」を開催した。ピーター・ピオット博士は昨年に続き2度目の来校であり、このようなことが実現できるのもGAコースの教育にご支援をいただいている木原正博教授からのお誘いがあったからこそである。まず、生徒が自分の担当するゲスト講師の紹介を行い、それに続きピーター・ピオット博士から基調講演が行われた。その後、高校2年生の2グループがそれぞれの研究テーマで発表を行い、ゲスト講師一人一人から今後の課題研究にとって貴重なコメントをいただき、最後には校長からのスピーチで締めくくりとなった。中3から高2までのGAコースの生徒130名が全て英語で行われたセミナーに真剣に参加し、特に、高校2年生が中心となり生徒だけで運営を行うことができたのは今後の活動にとって大きな成果であった。



④2018 年度 次世代リーダー養成プログラム (GA コースの生徒だけでなく一般生徒も参加可)

日程: 7月25日(水) ~8月4日(土)

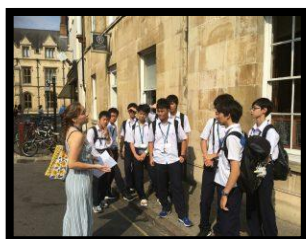
場所: イギリス連邦 Cambridge 大学 Homerton College

参加生徒: 40名 (高2...3名 高1...37名) 引率教員: 2名

6回目となる英国でのリーダーシップ研修は、57名の希望者から選抜された意欲ある40名が、校内での4回の研修の後、ケンブリッジ大学 Homerton College を会場として、下記の5つをテーマとするプログラムに参加した。

①英語集中授業 ②グループディスカッション ③個人プレゼンテーション ④レクチャーやワークショップ ⑤ケンブリッジ・オックスフォード・ロンドン市内観光

参加生徒の意欲と積極性は高く、各自が大きな成就感を得て、将来の進路を考えるうえで非常に貴重な研修を経験したことになった。



⑤2018 年度 次世代リーダー養成プログラム プレコース ポストン語学研修+ホームステイ

日程：7月27日（金）～8月6日（月）

場所：アメリカ合衆国 ポストン、ニューヨーク

参加生徒：30名（中3・30名） 引率教員：3名

今回で3度目となる次世代リーダー養成プログラムのプレコースを下記の8つをテーマとしてアメリカ ポストンにて実施した。①世界屈指の文教都市ポストンでのホームステイ ②ホームステイ先からの公共交通機関（地下鉄・バス）による通学 ③英語研修と英語での個人プレゼンテーション ④世界トップ大学（ハーバード大、MIT）への訪問及び学生・院生との交流 ⑤外部講師による英語でのレクチャー ⑥ポストンでのアメリカ史の学習 ⑦ニューヨーク観光 ⑧ハーバード大 DANA-FARBER Cancer Institute の見学（本校卒業生 羽田氏が労をとってくれ実現の運びとなった）

ハードスケジュールにも拘らず、参加した生徒は意欲的に取り組み、各自が大きな達成感を得、本プログラムが本校のミッションにある” Global Mindset” を育むことに大いに資すると期待される。



⑥ 文部科学省主催 平成30年度 第1回SGH 連絡会 指定校報告（分科会）6月29日

場所:筑波大学東京キャンパス文京校舎

連絡会分科会第一部は、カリキュラム研究開発事例と題して8会場に分かれ、指定校3校の教員による発表が行われた。カリキュラム開発に焦点化して議論・共有するために、具体的にどのようなカリキュラムを開発し運用しているかについて各指定校から発表が行われた後、ディスカッションによって、より深い意見交換と人的交流が行われた。

午後、文部科学省が主催する連絡協議会が開催され、小幡泰弘文部科学省初等中等教育局国際教育課長の挨拶と「今後のSGH事業」について行政説明が行われた後、永井裕久筑波大学ビジネスサイエンス系教授によるSGH成果検証事業の速報について「継続すべき点・変更すべき点」と題した講演が行われた。その後、小形徳広文部科学省高等教育局学生・留学生課課長補佐による「留学生政策をめぐる現状と取組」について講演が行われた。

次に、筑波大学附属学校教育局（幹事校管理機関）が主催する連絡会が同会場において開催されました。濱本悟志筑波大学教授・附属学校教育局次長の挨拶、大川一郎筑波大学人間系教授・附属高等学校長による「SGH5年間の成果をどう次につなげていくのかー今後を見据えてー」と題した講演が行われた。

連絡会分科会第二部は、先進事例報告と題して8会場に分かれ、指定校18校の教員及び5つの連携機関等による報告が行われました。各指定校から、様々な先進的な取組について報告が行われ、活発な質疑応答が行われた。



⑦ 2018 年度スタンフォード大学オンライン講座 9月29日（土）～3月15日（金）

Stanford e-Course on Global Health for Takatsuki Senior High School 2018

(<http://spice.fsi.stanford.edu/news/global-health-takatsuki-senior-high-school>)

今年度で4期目となる本校とスタンフォード大学国際異文化教育プログラム(SPICE)[代表:Gary Mukai 博士]が共同開催する本講座では、受講生は同大学の研究者による国際的な取り組みの実践を通してグローバルヘルスの重要性を学んでいる。今年度も定員を超える参加者の応募があり、現在、高校1年生44名が受講している。

【2018 年度 VC(ヴァーチャルクラス)の日程】

第1回 VC [9月29日（土）]

講 師：Sabrina Ishimatsu オンライン講座担当講師

テーマ：『コースガイダンス』

第2回 VC [10月17日（水）]

講 師：TeachAids プロジェクトマネージャー補佐 Noura Bou Zeid さん、研究助手 Krishna Gorrepati さん

テーマ：『① TeachAids の活動 ② グローバルヘルス分野における研究と進路にかかわる機会』

第3回 VC [11月17日 (土)]

講師：スタンフォード大学非常勤講師 Mari Ormiston (精神医学、行動科学)

テーマ：『Global Mental Health(世界のメンタルヘルス)』

第4回 VC [12月14日 (土)]

講師：スタンフォード大学 医学部 Lui Hac Minh 教授、外科教授 Samuel So 先生

テーマ：『B型肝炎と肝臓がん』

第5回 VC [1月26日 (土)]

講師：スタンフォード大学 リサーチアソシエイト Fumiaki Ikeno 先生

テーマ：『Entrepreneurship of Medical Devices (医療機器をめぐる起業)』

第6回 VC [2月9日 (土)]

講師：スタンフォード大学 客員研究員 Phyu Phyu Thin Zaw 先生

テーマ：『Maternal Health and Poverty Eradication (母親の健康と貧困撲滅)』

第7回 VC [2月23日 (土)]

講師：スタンフォード大学 医学センター准教授 Phillip Yang 教授 (糖尿病)

テーマ：『』

第8回 VC [3月15日 (金)]

講師：SPICE ディレクター Gary Mukai 博士、Sabrina Ishimatsu オンライン講座担当講師

テーマ：『総括と修了証の授与』 第1回 VC [9月30日 (土)]

⑧ パラオ・フィールドワーク事前セミナー 10月2日 (火)

演題：『パラオ共和国と日本ー過去・現在・未来』

講師：大阪大学 国際共創大学院学位プログラム推進機構 特任准教授 三田 貴 先生



⑨ 高校2年・第4回パラオ・フィールドワーク 11月11日 (日)～11月16日 (金) [言語：英語]

各自が進める課題研究について、パラオ共和国にて4回目のフィールドワークを実施した。今回も例年と同様の協力を各機関より得ることができた。

- (1) 現地連携校 (Mindszenty High School) での学校交流とホームビジットによるインタビュー
- (2) パラオ政府機関 (保険証・国立病院・教育省) への訪問とセミナー・インタビュー
- (3) 在パラオ日本大使館 表敬訪問と特別セミナー
- (4) 現地のライフスタイルを理解するための山村フィールドワーク
- (5) 太平洋戦争激戦地ペリリュー島訪問と島民との対話集会・インタビュー・フィールドワーク



⑩ 2018年 若手パブリックヘルス研究者 京都国際会議 参加 12月3日 (月) [言語：英語]

2018 Kyoto Global Conference for Rising Public Health Researchers

場所：京都大学 国際科学イノベーション棟5F

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻主催で行われた『[2018年若手パブリックヘルス研究者京都国際会議](#)』に参加した。本校GAコースは今年度で4回目の参加となるが、特に今回は高大連携を促進することから、同専攻 専攻長 健康情報学分野 中山健夫 教授からの正式な招待に基づく参加となった。

ポスター・プレゼンテーションでは、海外の研究者による英語での説明を聞き、英語で質問をして理解を深めた。その後パワーポイントを用いた海外研究者3人による本格的なプレゼンテーション見学した。最後にスペシャル・

プログラムとして、本校から工藤校長による学校紹介、高校2年生2名の Non-communicable Diseases(非感染性疾患)についての発表、高校2年生1名が平成31年1月12日(土)に本校主催で行われる『グローバルヘルス高校生フォーラム』について紹介する時間を設定していただいた。さらに、ディナーレセプションにも参加させていただき、



世界の一流の研究者の方と交流する貴重な経験となった。

⑪ 文部科学省・筑波大学主催スーパーグローバルハイスクール (SGH) 全国高校生フォーラム 12月15日(土)

会場：東京国際フォーラム ホールE・ガラス棟G

発表者：(高2) 倉場康太、宮迫 要 テーマ別分科会：新熊 璃久、古儀 佳祐

テーマ別分科会司会：小原 大輝、湯山 蒼介

アジア高校生架け橋プロジェクト留学生：Chattawat Papiamsuksiri(タイ) Kaung Khant Nyi(ミャンマー)

全国のSGH指定校123校・アソシエイト55校、開催地である東京都の高等学校の代表生徒が一堂に会し、英語でのポスターセッションやディスカッションを通して、SGHとして取り組んでいるグローバルな社会課題・ビジネス課題の解決や提案について英語で発信するものである。

本校からはすべてのセッションに、高校2年生4名とアジア高校生 架け橋プロジェクトで本校に来ている留学生の2名が参加した。

ポスターセッションには発表者2名、ディスカッションには留学生2名を含めた全員が参加。また今回は、ボランティアとしてディスカッションの司会をする高2生の2名も加わった。残念ながらポスターセッションでの賞獲得とはなかったが、全国レベルのポスター発表と英語での発表・ディスカッションを行うことができ、参加生徒にとっては次へとつながる良い経験ができた。留学生にとっては全国に散らばっていた留学生が一堂に会したことで旧交を温める機会ともなり、楽しく充実した一日を過ごすことができた。



⑫ グローバルヘルス 高校生フォーラム 1月12日(土) [言語：英語]

今年度の本校のSGH事業の柱となる事業の一つとして、本校の行う実践を近隣校へと普及させるための新たな取り組みとして行ったものであり、また高大連携の事業として京都大学グローバルヘルス学際融合ユニットの後援で開催した。高校生が協働活動を通じて社会課題として顕在化しつつある「グローバルヘルス」を意識し、高校生の視点から世界の人々の健康問題や健康の向上を考える機会を設定することを通して、バランス感覚の優れた次世代グローバルリーダーを育成する目的で行った。

最初に、WHO 健康開発総合研究センター 茅野龍馬 医官と京都大学大学院医学研究科 木原正博 教授より基調講演をしていただいた。続いて招待校の高校生と本校生が8つのテーマに基づきグループに分かれ、それぞれのテーマについてその問題点と高校生としての解決策をディスカッションし纏めることを行った。グループ協議には京都

大学の上記ユニットから外国人研究者9人がアドバイザーとして加わり、生徒たちはその内容をパワーポイントで纏め、最後に発表を行った。参加した高校生は、大阪府、兵庫県、京都府の6校19名となった。最後に、講師として参加いただいた先生方から講評をいただき閉会となった。
使用言語が英語であるということで高いハードルではあったが、他校の生徒とともに意見を交わして、提言をまとめるという有意義な経験ができたフォーラムとなった。



⑬ 台湾・台北 私立延平高級中学との交流 1月29日(火) [言語:英語]

台湾・台北から私立延平高級中学の代表団(教員6名・生徒50名)が来校し交流会を行った。延平高級中学には毎年2月にGAコースの高校1年生が課題研究の中間発表を兼ねて訪れており、両校の交流の一端として今回の訪問となった。

歓迎式典では両校の校長先生の挨拶と記念品交換、本校生徒代表の歓迎の言葉・学校紹介、延平高級中学からも生徒代表の挨拶と学校紹介、台湾文化についてのプレゼンテーションとその内容に関するクイズ、環境問題に関するプレゼンテーション、ダンスパフォーマンスが行われた。昼食をはさみ、学校見学と吹奏楽部の演奏による歓迎ミニコンサートが行われ、続いて延平高級中学のソロのダンスパフォーマンスが披露された。その後、中3から高2までのGAコース各クラスで企画した交流会を行った。各クラスとも趣向を凝らした活動(ゲーム、大縄跳び、クイズなど)や生徒同士でプレゼント交換を行い、両校の生徒がさらに交流を深めることとなった。閉会後も別れを惜しみながらの挨拶や握手、写真を撮ったりする姿が見受けられた。



⑭ 本校SGH 事業公开发表会 平成31年2月23日(土) 午前9時30分～午後2時30分

外部の関係者を招待し、第3回となる本校のSGH事業の発表大会を校内にて開催した。中学3年から高校2年までの各学年のSGHコースの代表生徒による口頭発表および高1・高2の生徒約80名によるポスター発表を実施した。前回同様、SGHコースの生徒全員がこの発表会で発表を行い、中学3年生も含め生徒間で評価を行った。また、この発表会の機会を利用して、2018年度スタンフォード大学オンライン講座の第7回のバーチャルクラスを一般公開した。



⑮ 高1 第5回「課題研究」中間発表会（台湾研修） 平成31年2月25日（月）～2月28日（木）

生徒：高校1年44名 教員：3名

訪問先：私立延平高級中学、國立臺灣大學公共衛生学院、私立臺北醫學大學公共衛生学院、富士ゼロックス台湾、王鼎精密股份有限公司

過年度に引き続き、台湾・台北市の連携高校である私立延平高級中学を訪問し、本校生7グループによる「課題研究」の中間発表会を実施した。その後、大阪医科大学の協定大学である私立臺北醫學大學へ訪問。李宏信董事（理事）の歓迎の辞に続いて、公共衛生学院の陳再晉先生から「台湾の健康保険と医療事情」について英語による講義を受け、その後、本校の1グループが教授の前で課題研究の発表を行った。三日目には、連携をお願いしている國立臺灣大學 公共衛生学院へも訪問を行い、呉章甫副学部長による歓迎の辞の後、蔡坤憲先生から「グローバルヘルスと病原菌媒介生物が媒介する感染症」について英語で特別講義を受け、その後、本校の3グループが教授陣の前で課題研究の発表を行った。また、日本企業（富士ゼロックス台湾）および新興の時計メーカーである台湾企業（王鼎精密股份有限公司）を訪問し、企業のグローバル展開や社会貢献活動についても学んだ。



⑯文部科学省 スーパーグローバルハイスクール（平成28年度指定）の中間評価についてのヒアリング

日時：平成30年6月11日(月) 場所：中央合同庁舎第7号館

これまでの実践について、その基本となる考えから各種活動についてヒアリングにおいて質疑応答を行う。

結果については、平成30年9月28日付で公表され、上から2番目の評価を得る。

⑰『アジア高校生架け橋プロジェクト』来日留学生受け入れ

『アジア高校生架け橋プロジェクト』（主催：文部科学省、実施：公益財団法人AFS日本協会）で来日したタイ・ミャンマーからの留学生2名を、8月27日（月）～翌年2月13日（水）まで本校に受け入れた。

留学生2名が、充実した日本での日々を過ごすこととなり、在校生にとっても多様性や異文化理解の良い機会となった。

